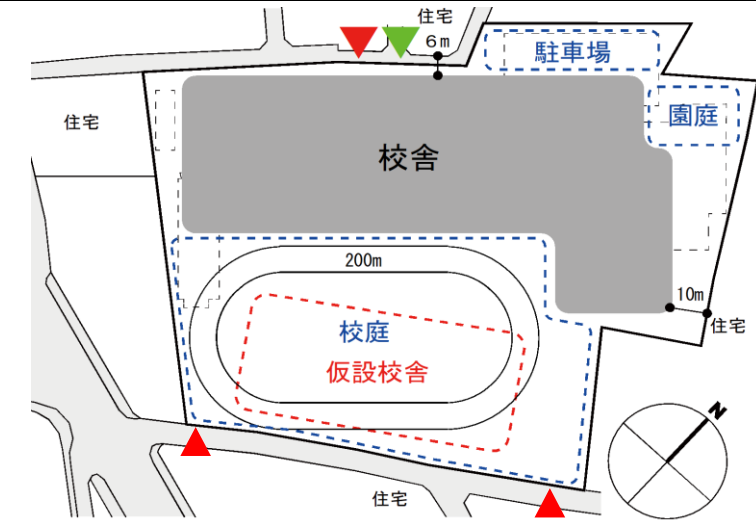
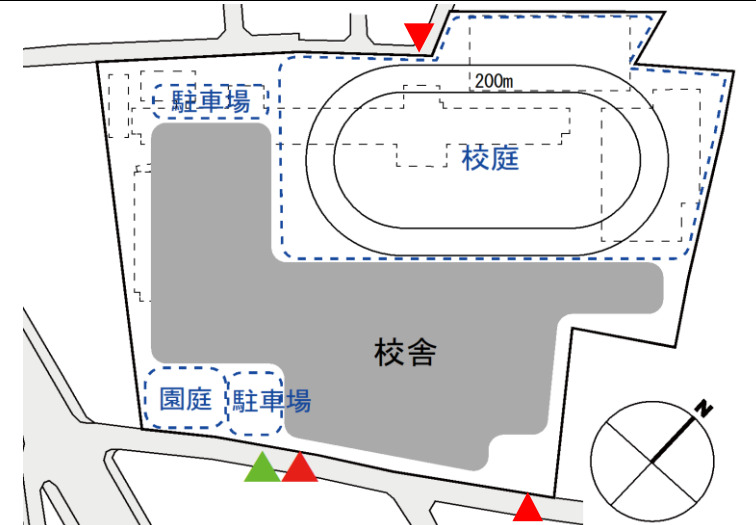
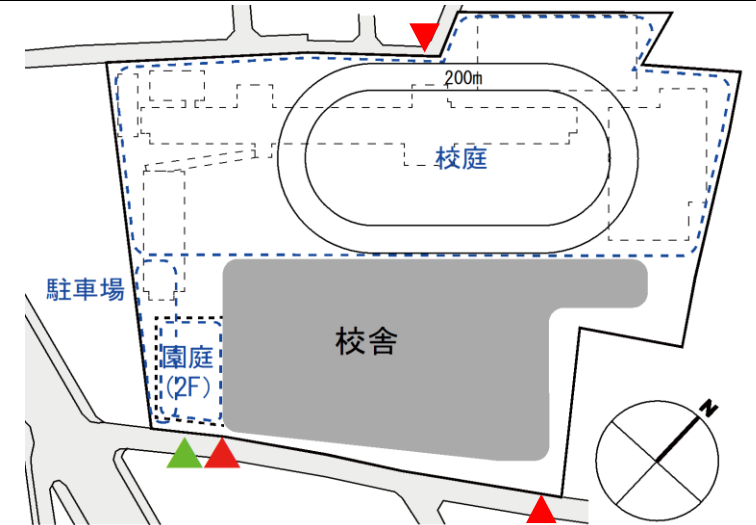


田無第三中学校 配置比較表

赤字：メリット 青字：デメリット

田無第三中学校建替協議会
第13回 令和8年8月24日

資料 5

		A案 北側校舎 仮設あり	B案 南西側校舎 仮設なし 二期工事	C案 南側校舎 仮設なし
配置				
想定コスト（増加分）		仮設校舎分の事業費増加（約33億円） ※仮設校舎として利用終了後は解体し、再利用不可	なし	なし
供用開始時期(目安)		校舎：令和14年度、校庭：令和16年度	南校舎：令和13年度、西校舎：令和15年度、校庭：令和16年度	南校舎：令和13年度、校庭：令和15年度
教育環境 (工事中)	学習環境	学習環境に工事範囲が近接、騒音・振動の発生への配慮必要	学習環境に工事範囲が近接、騒音・振動の発生への配慮必要	学習環境に工事範囲が近接、騒音・振動の発生への配慮必要
	工事期間	計6年(仮設校舎建設1.0年 旧校舎解体1.5年 新校舎建設2年 仮設校舎解体1.0年 外構整備0.5年)	計5年(新南校舎建設1.5年 旧校舎解体1.0年 新西校舎建設1.0年 旧体育館等解体1.0年 外構0.5年)	計4年(新校舎建設2.0年 旧校舎解体1.5年 外構0.5年)
	校庭 使用制限	計6年 使用制限（一部利用不可2.5年、全面不可3.5年）	計5年 使用制限（一部利用不可4.5年、全面不可0.5年）	計4年 使用制限（一部利用不可1.5年、全面不可2.5年）
	体育館等 使用制限	仮設体育館を整備する場合：制限なし 仮設体育館を整備しない場合：3.5年 使用制限	制限なし	制限なし
	工事ヤード	確保可能 ※現場事務所は近隣に確保する必要あり	確保可能 ※現場事務所は近隣に確保する必要あり	確保困難（工事ヤードを優先すると校舎との離隔を確保できない）
教育環境 (完成後)	運動場	200mトラック確保 南側配置のため水はけがよい、日陰がない	200mトラック確保 北側配置のため水はけに配慮必要、日陰確保可	200mトラック確保 北側配置のため水はけに配慮必要、日陰確保可
	フロア配置	複合施設を含め動線計画が構築しやすく、安全性や利便性が高い	学校部分が点在化し、シンプルな構造の校舎とならず、学習活動等における利便性の低下が懸念される	限られた範囲に複合施設と学校施設を配置するため、動線が重なりやすく、学校活動等における利便性の低下が懸念される
複合施設 (完成後)	フロア配置	低層階にまとめて配置できるため利便性が高い	低層階に配置できるが、配置場所が分散し、進入口や利用動線が複雑化することが懸念される	建築面積が狭いため、複合施設が複数階にまたがり、利便性の低下が懸念される（児童館が4階、園庭が2階など）
近隣への 影響 (完成後)	住宅地との 距離	既存と同じ配置、北側住宅地からの距離が既存よりも近くなる（北側約6m）※既存5-15m	既存と異なる配置、東側住宅地に近接	既存と異なる配置、東側住宅地に近接
	複合施設の 影響	複合施設入口が北側住宅地付近となり、住宅前の往来が増加するため配慮が必要	複合施設入口が南西側付近となるが、住宅からは離れているため影響は少ない	複合施設入口が南西側付近となるが、住宅からは離れているため影響は少ない